

日本と韓国、協力するためには

金 俊佑（韓国）

私は幼いころ日本に住んでいました。まだ小さかったので、記憶は断片的にしかありませんが、日本に対しての印象だけははっきりと残っています。とても暖かくて、かつ穏やかな良いイメージです。周辺に公園が多く、自然が身近にあって、人々にはゆとりがあり、とても親切でした。そのときのふんわりとした思いが良かったからでしょうか。私はこうしてまた来日し、大阪大学で留学生活を送っています。幼いころの日本は良い印象ばかりでしたが、年月が過ぎ来日すると、昔は見えなかったものに気づくようになりました。例えば、来日以来私は小説に熱中しています。日本語で専門書籍を読むのはまだまだ難しいのですが、小説であれば少し分からなくても、理解するのに問題はありません。このような中で、一人の作家の本が大変興味深く、韓国のWebサイトでその作家について調べてみました。するとその作家は韓国に対して良くない意見を持っている人で、そうした見解を公に発信していました。それらは日韓の歴史に関することだったので、この作家に対する韓国人の評判も良くはなかったです。この著者の小説をとても楽しく読み、関連の本も購入していた私は心の片隅が痛みました。「このような人の本を読んでもいいのか？」から始まり、それからありとあらゆる思いが駆け巡りました。しかし結局心に残ったのは悲しみです。韓国、日本ともとても好きなのにどうもしっくりこない、そういったことに対する悲しみでしょうか。まるで好きな友達二人が喧嘩をしているようです。

今日、日韓関係は悪化していますが、結局は隣人の間柄として協力しなければならないパートナーです。G2といった巨大な国、アメリカと中国があり、ヨーロッパがEUであれだけ大きな勢力になっているとき、韓国も日本もこれらの国々と競い合いながら生き残るために、協力ほど良いものはありません。本来日韓関係が行き違いになったのは最近100

年の事、そして1592年から始まった7年間の戦争で、こう考えると日韓関係が崩れたのはわずかな期間です。2300年の間、韓国と日本が敵対関係だったのはたったの100年なのです。それなのに今はどうでしょうか？今の韓国と日本は一言で表現すると「遠くて近い国」です。地理的には近いのに心理的には遠い、そういった関係性ではないかと思います。グローバル化が進み、世界が一つになりつつある今、一番近く隣の国である韓国と日本が争っているのは互いにとって大きな損害だと考えます。世界を見る前にまずは隣の国を考えて見るべきです。

日本と韓国に住んで感じた違いは多くあります。しかしながら、その相違点は相互補完的です。つまり、日本の長所が韓国の未熟な面だったり、韓国の長所が日本の弱みだったりします。まずは性格上での違いです。韓国人は日本人より正直に言う印象があります。もちろん同じ儒教圏なので思った事をそのまま言わないという面では似ていますが、その傾向は日本の方が顕著です。秩序の点では日本の方が素晴らしいです。電車に乗るときの姿だけで分かります。日本人はたいてい、人が降りてから乗ります。しかし韓国ではそういった整然とした姿は見られません。次は変化の早さです。韓国は2、3年のうちに実に多くの事物や情勢が変わります。それに比べ日本は何年後に来てもその場所にあったものがかつてのままあります。工学を学ぶ学生として気づいた点もあります。例えば海外で優れた商品が作られたとします。すると韓国ではその商品と似たようなものをとにかく早く作り上げようとしています。社長が「この商品を本社でも来月には売れるようにしろ。それまで家に戻れると思うな」などと言うと、驚くことに韓国人は本当にそれを期間内に作り上げます。一方日本は正反対のスタイルです。時間が少しかかってもその商品を丹念に分析し、根本的な技術を探り出します。そしてそれを向上させて自分のものにしてしまうのです。日本人のこの特徴もまた驚くべきことです。しかし最近の動向をみると、全てがあまりにも早く変わり、次々と新しいものが作られているので、日本のその長所は短所に変わりつつあります。これはグローバル化が進んでいるからだと考えられます。グローバル化によって国家間競争が増え、ライバル企業も国内外で増えています。地球の裏側で作られ

たものが明日には日本に入ってくる世の中です。韓国はこのような競争社会で、表面的にはうまく乗り切っているように見えますが、押し出しだけが立派で中身がありません。なぜなら基本部品などを作る基礎的な技術を知らず、その部分を海外に依存し製作しているからです。

この様に韓国と日本は似て非なる点が多くあります。世界情勢にこれから立ち遅れないためには、短所になりつつある特徴を長所に転化させる必要があります。韓国の変化に対する対応力と日本の着実性を重視する面を合わせれば、それこそ共存共栄ではないでしょうか。そのために必要なのは協力です。そして、これから日本と韓国の人々が考えなければならないのはいかに協力するかです。

しかし、そのような協力関係になるためには先に解決しなければならないことが二つあります。第一に適切な相互理解のための歴史教育です。ある日本人がこんなことを言ったそうです。「世界中の人々が日本を尊敬しているのに、唯一韓国人だけが日本を無視している」と。「日本が古代国家で何をして日本文化がどうであり」と言うと、韓国人は「それは全部私たちがやってあげたことだ」と、具体的に何をしたかはよく知らないがとにかく自分らがしてあげたものだと言うらしいです。韓国のユ・ホンジュン教授はこれに対してこう語っています。「日本は古代史コンプレックスがあって歴史を歪曲し、韓国は近代史コンプレックスがあって日本を無視するのだ。両国民がそのコンプレックスの色眼鏡を脱ぎ、ありのままの姿を見る視点を持つようになったら両国の親善関係は育まれる」と。そのためには適切な相互理解のための歴史教育が必須項目です。私の周囲の人々を見てみると、韓国人であれ、日本人であれ自国史について詳しくありません。このためお互いの歴史については言うまでもないでしょう。韓国と日本が互いにいがみ合うのは各自の固定観念に閉じ籠もって物事を見ているからです。また知識がないが故に、マスコミに扇動されやすいのも事実です。これからは歴史を語るときに、自国に囚われず、東アジア全体の観点から物事を考える必要があります。そうすればお互いの立場についても考えることができるようになるでしょう。象に関する物語があります。王が盲目の6人に象を触り、それを自

分に説明してくれと言いました。象の足を触ってみた人は柱みたいだといい、尻尾を触った人は綱みたいだと、鼻を触った人は枝のようだといいました。また耳を触った人はうちわみたいだと、お腹を触ってみた人は壁のようだと、象牙に触れた人は固いパイプみたいだと言いました。そして彼らは互いに自身の説明が正しいのだと一日中、主張し続けました。そして論争が長引いた果てには、互いにひどいことを言い合ったそうです。これはまさに我々の姿です。もし、一人が足も、お腹も、耳も、鼻も、象牙も、尻尾も触っていたらそれが象だということが分かったはずですが、我々も歴史を広い観点から見ないと相互理解はできません。いまだに歴史の問題が残っているのは象の足を触った人は柱だと言い張り、耳を触ってみた人はうちわだと言い張るからです。

第二に自ら自発的に相手に善行をしようと言う気持ちを持つことです。韓国のことわざにこういう言葉があります。「笑っている人に唾を吐く人はいない」と。もし日本人が韓国人に良い印象を与えたら、その韓国人も日本を悪くは言わないでしょう。それだけではなく他の日本人にも親切にしたいと思います。また日本には恩返しという言葉があり、韓国には刻骨難忘(カッコルナンマン)、「他人より受けた恩が骨に刻まれるほど忘れられない」という意味の四字熟語があります。韓国も日本も恩を大切にする国なのです。もし一人の韓国人が日本人に良い印象を与えたらその日本人は韓国人に良い印象を持つことになり、他の韓国人に出会っても必ず親切に向かい合うと思います。すると又その韓国人も日本人にあったとき恩返ししようと思いやさしく接します。たった一人の善行が多く善行につながり循環するのです。もし皆がそういった姿勢でいれば日韓関係を国民のレベルで変える事ができると信じます。私はすでに日本に感謝しています。それは私のような他国の学生のために奨学金まで給付し、名門大阪大学で学問に精進する環境を日本が作ってくれたことです。私は常にそれに感謝を感じています。このため日本と韓国両国のよりよい関係のために自分ができることは何かを常に考えようとしています。私一人の努力でも後続が必ず大きな波になると信じています。

日本に来て半沢直樹と言うドラマを見ました。その中で覚えているセリフがあります。

それは「真に受けるなんてばかげてますよ」です。まさに我々が取べき姿勢です。どこに行っても悪い人はいます。日本は訳もなく嫌い、韓国は悪いなど極端な話をする人は象のお腹だけを触ってみて壁と知っている人と同じです。そういう人のことを真に受けないでください。私が実際両国に住んでみて付き合った人の中で相手の国について悪く言う人はきわめてゼロに近かったのです。かえって良い印象を持っている人が大半でした。今まで日本で住みながら韓国人だということで差別などを受けたことは一度もありません。目も見えないのに大きな象の全体を触ることは難しいことです。しかしその努力をしたとき初めて真実を知ることができるでしょう。